

図書館フレンズベっぷ

渡部幹雄和歌山大学教授（大学図書館長）にお聞きしました

いよいよ別府市でも新しい図書館づくりに向け、「別府市図書館美術館建設基本計画」策定事業が始まりました。

今日は、和歌山大学図書館長の渡部教授に図書館づくりについてお話を伺いました。先生はこの基本計画には関係されていませんが、緒方町、森山町、愛知川町で公共図書館づくりの経験があり、現在も国内県内の図書館づくりに数多く関わられています。



●インタビュー その1

Q 新しい図書館を立ち上げることに、どのように考えたら良いでしょうか。

図書館に対するイメージは、市民の皆さんさまざまだと思います。図書館という建物や場所が有り、そこに本があれば、それが図書館と多くの方は思っています。本好きの限られた人の行くところ、受験生の勉強部屋とかいうイメージが、別府ではまだ強いのではないのでしょうか。

しかし日本では昭和40年代に始まった図書館改革で、各地に先進的な図書館が生まれ、従来のイメージを大きく変えてきました。それは、全ての市民へのサービスを目標にすえ、誰がどんな目的で来ても応えることのできる豊かな資料を揃え、その資料が探せるように検索ツール、職員による資料案内・レファレンスサービスを充実させ、資料の貸出をサービスの中心に据えたことです。大幅に利用が増え、それまで図書館に人が来なかったのは本を読まない人が多いからではなく、資料が揃ってなかったのが原因だったということが証明されたのです。

図書館を訪れる市民は様々な目的を持っています。自身自身の能力アップや楽しみのため、教育や子育てのこと、まちづくりや観光産業を初め農漁業、製造業などの情報、文化・芸術・スポーツなどについて調べたいなど、全ての市民がそれぞれに「知りたい、学びたい、楽しみたい」と思っている気持ちにこたえることのできる図書館が大きく広がっていききました。その結果、今まで図書館には縁の無かった市民が図書館を利用するようになり、図書館もそれにこたえようと資料を集め、サービスが豊かになってきました。

私は、世界十数カ国の図書館、日本各地の図書館を見てきましたが、優れた図書館は、書棚と職員を見れば分かります。専門的知識とホスピタリティーを持った職員が努力すると、豊かな書棚が形成されます。魅力ある書棚の前に立つと、あれもこれも手に取ってみたいくなり、つい時間を忘れてしまいます。このような書棚を

形成することのできる職員は、利用者の持ち込む情報や問題意識にもとても敏感です。

以前、図書館長をしていた滋賀県愛知川町(市町村合併で現在は愛荘町)の図書館では、ビオトープやモンゴルのゲルを図書館の外庭に作ったり、コンサートや展示会など、図書館利用者の情報や協力で多様な活動が広がっていききました。「図書館を遊ぶ」という本を出しましたが、図書館の基本である資料と職員の充実を図れば、住民はそれに触発され自発的にいろんな活動を始める事を多くの人に知って欲しかったからです。

別府でも、いい図書館ができれば、多くの市民が多くの本を読み、ものを考える市民が育ちます。そのことが、地域に活力を与え未来へと繋がります。目先のことでなく、将来にわたって発展する図書館や美術館の構想を作ることが検討課題でしょうね。

別府にも地域に根ざした、市民と共に歩む図書館を！

次ページへ
つづく→



図書館に対する多様な期待を持った市民を 満足させるためには、 理念と専門知識が必要

別府市立図書館と
滋賀県愛荘町立図書館を
比べてみました

	別府市	滋賀県愛荘町
人口	122 (千人)	21 (千人)
分館数	0	1
専任職員数	2人	8人
蔵書冊数	204 (千冊)	393 (千冊)
開架冊数	93 (千冊)	259 (千冊)
1人あたりの貸出冊数	2.4冊	14.4冊
2015年資料費(予算)	16,000 (千円)	34,233 (千円)

日本図書館協会発行「日本の図書館 2015」より

Q 将来にわたって発展する図書館や美術館 そのためにはどのようなことが大切でしょうか。

図書館や美術館を作るということは、図書館、美術館と呼ばれる建物や施設を作ることだけではありません。その運営の仕方、全てが決まると言っても過言ではないでしょう。基本計画で運営構想を明確にすべきではないでしょうか。

図書館や美術館についてはっきりとした理念を持ち、経験を積んだ専門家の意見を、構想にどう反映させるかが大切になります。

図書館の事を深く知らない人でもその人なりの図書館イメージを持つことができますが、図書館に対する多様な期待を持った市民を満足させるためには、理念と専門知識が

無ければその構想は独りよがりになります。同時に構想の次の段階、実施計画を立て実現するためには、能力と気概を持った館長や職員をいかに早く配置できるかが大きなポイントです。できれば、計画段階からそのような人に入って欲しいですね。

私が愛知川で、図書館を作るときは、準備段階から職員として雇用され、開館後は館長をつとめました。職員も有能な人を確保することができ、明快なビジョンを持ち準備、運営をすることができました。滋賀県の図書館の急速な発展は、全国から図書館のために働こうとする職員を得たことで実現したのです。

優れた図書館は、
書棚と職員を見れば分かる
専門的知識と
ホスピタリティーを持った職員が
豊かな書棚を形成する

Q 「理念」ということですが、 どのようなことでしょうか。

図書館を作るとき、素敵な建物ができ、本があって、そして人が集まれば良いと思いますが、下手をすると話題づくりが図書館の目的になったりすることがあります。目新しいことやイベントなどで人目を引こうとしても、賞味期限は限られます。図書館本来のサービスが充実し、図書館への信頼と共に利用が増え、多くの市民に支持される図書館に成長することができるかが最も

大切なことなのです。

それは、図書館とはそもそも何なのか、どのような役割を果たすべきなのかという理念がなければできません。国立国会図書館には「真理がわれらを自由にする」という言葉が掲げられています。日本図書館協会が制定した「図書館の自由に関する宣言」を図書館入り口に掲げている図書館もあります。またよく知られたものとして「ユネスコ公共図書館宣言」などは世界共通の認識となっています。図書館とは民主主義社会を支え発展させるシステムだということです。

資料そのものはいろんな価値観を持った人が書いたものですから、本を揃えるとき特定のものに偏らず、公平中立

の立場で幅広くバランスの良いものにする。同時に入門書から放送大学程度の専門書、子どもから大人までを意識した資料、障がいのある人のための資料、日本語以外の資料、どのような利用者が来ても全ての分野で一通りの基本的な図書が揃っている書棚を作らなければなりません。

そのためには一定額の資料費が必要です、本の出版状況や地域の状況などに詳しい職員が必要です。日本図書館協会が制定した「図書館員の倫理綱領」という文書もあるので是非読んで下さい。図書館職員が民主主義社会を支えるという「理念」を持って働くことで、図書館は発展していくのです。

渡部先生の
お話から

図書館には希望がある。 「学び」が人生を豊かにしてくれる。



図書館は自らの好きな時に学べる。

そのいつでも学べる場所での本との出会いが家族や自らをも救うことがあるという事例

学費を払えず退学した子供が 科学者の国際会議でスピーチ



マラウィでの実話であるがウィリアム・カムクワンバという少年が、中等学校1年のとき、マラウィ全土を襲った早魃により、学費を払えず退学になる。NPOの図書室で物理を独学し、廃品を利用して風力発電のできる風車を自宅の裏庭に製作、人口のたった2パーセントしか電気を使うことができないマラウィで、家に明かりをとすことに成功する。そのことが現地の新聞で報道され、2007年には科学者や発明家、起業家の国際会議TED グローバルより招聘されスピーチをする。5年の空白の後、中等学校に復学し、さらに南アフリカ共和国の高校に進学。2010年9月からアメリカのダートマス大学で学び始める。

図書館は「秘めた能力」を引きだす装置

紙粘土で農作業風景など人々の営みを作ってきた後藤絹さん(緒方町小野在住、大正8年生)。後藤さんは、73歳から紙粘土で人形作りを始める。戦中・戦後の苦しい時代の農家の風景をテーマにした人形は、当時の生活の様子を知らせる貴重な資料というだけでなく、当時の人々の喜びや悲しみまでも見るものに伝えてくれた。絹さんのつくる人形は「絹さん人形」と呼ばれ、緒方町の資料館や俵楽の里だけでなく県外の博物館でも展示されているほど貴重なものになった。後藤さんにその制作のキッカケを伝えたのが渡部先生とのこと。「あんたしかできないことをしたらどうですか」と。絹さんは「紙粘土人形のおかげで人生を二度生きた」と言ったそう。その人その人の人生を豊かにしてくれる装置が図書館だと渡部先生。義務教育を終えてから「秘めていた能力」を引きだすことができる装置、お金は無くても勇気を与えてくれるのが図書館。

図書館の自由に関する宣言

図書館の自由に関する宣言は、1954年に全国図書館大会で採択されたものです。(1979年改訂)

図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする。この任務を果たすため、図書館は次のことを確認し実践する。

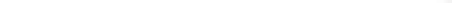
- 第1 図書館は資料収集の自由を有する。
- 第2 図書館は資料提供の自由を有する。
- 第3 図書館は利用者の秘密を守る。
- 第4 図書館はすべての検閲に反対する。

図書館の自由が侵されるとき、われわれは団結して、あくまで自由を守る。

いっしょに
考えませんか？
わたしたちの
まちの図書館

回答者の
年齢は？

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代

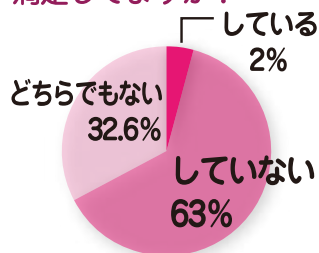


市民アンケート 実施中！

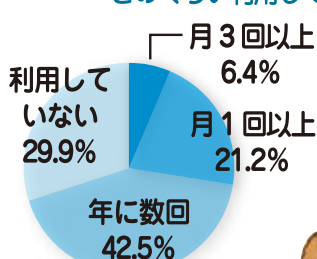
中間報告

2016年8月まとめ 回答者 110人

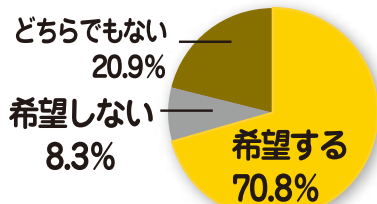
Qあなたは現在の市立図書館に満足していますか？



Q現在市立図書館をどのくらい利用していますか？



Qあなたは新しい市立図書館の建設を希望しますか？



郷土を知る事ができる(歴史・文化・特性)

教育委員会の責任で、設置し、直接管理運営される図書館が欲しいです。

図書館を市民の新しい拠り所として機能する場所として位置づけられるような建物と場所をめざしてください。

なぜ図書館移動させるのかわかりません。今の場所は立地がいいので、他の階を利用するなど工夫してリニューアルできればと思います。

静かな環境、木々や緑に囲まれた落ち着いた雰囲気(具体的には南立石公園、横の林の中や別府公園の中等。

トキハの上層階or専門店街に入れば良い。駅ビルをJRがつくるのであれば、その中に入り、ホームから直接いけるような形になれば通勤通学客が利用してくれてよいと思う。

場所は山の手跡地。駐車場も広くとれそう。美術館と並んでも充分の敷地で交通の便もよく、駅からもまあまあ近い。

別府ならではの観光、竹製品、温泉など専門的空間(資料館)

子どもがゆっくりと手に取って読めるスペースや椅子、ソファなどがあるとよい。木の椅子やテーブルなどあたたかい色や素材。

本の充実はもちろんですが、スタッフ(司書)の有能な方を従事させてほしい。例えば、こんな調べものがしたい。こんな勉強がしたいと言えばそれに必要な本資料をすぐ揃えてくれるこんな図書館があればいいと思います。

公立の図書館が公共財であるという基本的なことを認識して頂きたいです。

本を読まない人が多くて、日本語がおかしくなっている気がします。

学生さんの勉強スペースは別があるとよい。

立派な外観にお金をかけるよりも既存の空施設など有効活用できるならお金を大切に使うしてほしいです。

図書閲覧だけでなく市民の憩いの場として朗読、一人芝居、読み聞かせなどが出来る新しい形の図書館を希望します。

編集後記



『図書館フレンズべっぴ』の第1号をお届けいたします。私たちの会は別府市にふさわしい新しい図書館の実現を願って、8年前より活動を続けてきました。このたび「別府市立図書館及び別府市美術館整備基本構想検討委員会」も発足し、少し実現に近づいた感がありますが、今後、新しい図書館が誰もが使いやすい図書館になるよう、会報の名称も『図書館フレンズべっぴ』と変え、市民の皆様に情報を提供し、図書館づくりに寄り添いながら、声を上げていきたいと思っています。私たち会員は検討委員には選出されませんでしたが、図書館への思いは益々高まっています。今回は、皆様にご協力して頂いたアンケートも一部掲載させて頂きました。今後も引き続き、アンケートの集約や全国・世界の情報もお知らせしたいと思いますので、ご意見ご協力をお願いいたします。

代表 佐藤 慶子

発行 別府市に新しい図書館を実現する会(会費…年 1000 円、いつでも入会可)

連絡先／〒874-0906 別府市天満町2-28 中村佐市 TEL 080-1711-3461

ご意見ご感想をお聞かせください